

平成30年度 第2回 織田廣喜美術館運営協議会 会議録

- 1 会議の名称 平成30年度 第2回 織田廣喜美術館運営協議会
- 2 開催日時 平成30年11月7日(水) 13:30~15:00
- 3 開催場所 嘉麻市立織田廣喜美術館市民アトリエ
- 4 公開非公開の別 公開
- 5 非公開の理由 (会議を非公開とした場合のみ)
- 6 出席者
 - (1) 出席議員
緒方 泉(会長)、手島 静江、寺崎 めい子、松岡 正剛、藤井 隆昭
 - (2) 欠席委員 堀 洋子(副会長)、三木 一司
 - (3) 執行機関
嘉麻市教育委員会 生涯学習課課長 長岡 和広
課長補佐(館長) 上野 智裕
美術館係 主査 有江 俊哉
美術館係 学芸員 松田 佳奈
美術館係 地域活動指導員 藤嶋 芳絵
- 7 傍聴人数(会議を公開した場合) 0人

8 議題及び審議の内容

【議題】

- (1) 教育委員会点検・評価報告書(平成29年度事業分)について
- (2) 条例および条例施行規則の改正について
- (3) 平成30年度事業経過報告について
- (4) 平成31年度事業計画(案)について

【提出資料】

- (1) 嘉麻市教育委員会点検・評価報告書(平成29年度事業分)
- (2) 嘉麻市立織田廣喜美術館条例改正新旧対照表
- (3) 嘉麻市立織田廣喜美術館条例施行規則改正新旧対照表
- (4) 嘉麻市立織田廣喜美術館運営協議会規則
- (5) 平成30年度 事業経過報告

【議題及び審議の内容】

(1) 教育委員会点検・評価報告書（平成29年度事業分）について
点検・評価で得た評価、意見等を報告。

《主な質疑及び意見》

※以下、全て緒方会長からの意見

- ・3項目が去年より評価が下がり、A判定からB判定になっている。事務局側の自己評価がまず低い。課題として挙げられていることは実際には活動としてやってきている。事業の効果として成果はでているので、もっと評価しても良い。
- ・入館者数や参加者、参加校など、数値をきちんと入れていかないと委員は評価できない。
- ・運営管理事業については、照明や空調設備なども改善しているので事業の効果の自己評価はもっと良くてもいいのでは。
- ・点検・評価でいただいた課題を反映させて、事業を計画しないといけない。ここでC判定を付けられると終わってしまう。小さな課題でも丁寧に取り組んでいくことが必要である。
- ・美術館は子どもを育てる場所であり、高齢者の健康のための場所でもある。美しいものを見て、脳を刺激すると、血流が良くなり、食欲が増えたりすることもある。市民の健全育成を図るところになっているということのアピールしていくと良い。
- ・イタリアではパーキンソン病の治療に、苦痛を強いる運動療法ではなく、美術館と音楽でのダンスセラピーが行われている。小さな地域からその活動がヨーロッパに広がっている。美術館は健康とかかわりがある場所である。良いことをしているので、もっと事業の成果がわかるよう前に出して書くといい。
- ・美術館の運営にとって今が分岐点である。あまり評価が低いと嘉麻市に美術館はいらぬのでは、となることも考えられる。子どもたちの健全育成、高齢者の健康維持、社会問題と関わり、美術館は、ちゃんとした立ち位置を地域で持っているという話をしないと、美術館は何をやっているのか。どんなことやっているのか。と評価委員の人は思ってしまう。

(2) 条例及び条例施行規則の改正について

条例及び条例施行規則の文言等の整理・統一にともない、条例・条例施行規則が改正になり、申請様式についても修正となったことを報告。

《主な質疑及び意見》

- ・減免の入館料について、毎週土曜日は高校生以下無料開放日となっているが、日曜日は無料にはならないのか。(藤井委員)
- ・学校週休二日制に伴い、土曜日が無料開放日となった。日曜日祝日の開放はしていない。(事務局)

(3) 平成30年度事業経過報告について

平成30年度の事業について、各展示の入館者数やサークルによる市民アトリエの使用状況及び地域活動支援の回数などの各活動実績を報告。

《主な質疑及び意見》

- ・文化協会としては第一回嘉麻文化・芸術祭で生花展を予定していたが、会長からの指摘もあり、展示が取りやめになった。いろいろ協議して来年度からは別の場所で開催することとなった。作品を守るために様々な規制があることを知り、今後事業を行う際は慎重にすすめないといけないと感じた。(手島委員)
- ・貴重な文化財を守るための考えを文化協会と共有できた。その考えが創作者、表現者に定着しないといけない。いろいろあって大変だったと思うが、そのきっかけとなったので良かった。(会長)
- ・11月に織田廣喜美術館で中学校総合文化祭が開催される。美術部の教員が始めた事業であるが、教員はボランティアで参加している。教員数が少なく、祝祭日でも研修や部活などがあり開催は大変である。文化祭当日は自分も受付に座り、どういった来館者が来るのかといった反応を見たいと思う。スポーツ活動がメインの中で少ない部員ながら美術部がある。美術部が制作した手作りの作品が美術館に展示されるという非常に大事な取り組みをここでしている。碓井地区ならではの美術館。教員からもその重要性を発信していきたい。(藤井委員)
- ・中学校総合文化祭は14回目となる。教員の方も忙しい中で守ってきた。いろんなタイプの子もたちがいて、その中で表現活動が好きで、そこに自分の居場所があると感じる子、生きていく実感を得られる子がいる。そういう子をみんなで支えるという気持ちでここまで続いてきたと思うのでこれからも支援をお願いしたい。(会長)
- ・学校支援活動のところで、多数の中学校、小学校が来館しているが、せっかく来るなら鑑賞だけでなく説明もしてほしい。嘉麻市以外の学校にも広報すれば来館者も増えるのでは。美術館と名のつくものは近隣にはここだけ。学校来館時の説明等のプログラムがあるかを含めて多数の学校が来館するようアピールしてほしい。(松岡委員)
- ・書初め大会や短歌の作品発表の場などに美術館を使ってもらったらどうか。来館者が増えるのでは。(松岡委員)
- ・短歌は稲築の文化祭に展示してほしいということと話している。子どもの作品があると保護者はぜひ見に来る。書初め大会は嘉麻文化芸術祭で展示をおこなった。(手島委員)
- ・作品発表の場があると励みになる。また展示会場が美術館となるとやる気になるはず。その循環ができると良い。(会長)
- ・中学校の文化祭は賞などがあるのか。また作品を稲築支部の文化祭で出してもらいたい。今度の展示を観に行こうと思う。(手島委員)
- ・学校活動支援について、小学校の来館数は、半期に一度くらいでまとめてもいい。どこの学校が来たかをまとめて、校長会で配布したらどうか。(会長)
- ・4月に市内の小中学校の全ての教職員に対しカラー印刷の美術館利用案内を配布した。いくらか反応があったのではと考えている。(事務局)
- ・利用案内の資料を配布して、そのあともう一步追い打ちをかけたほうがいい。先手を打って動いた学校があることを知ると自分のところも美術館の利用を事業計画に入れてみようかなど別の学校も動くと思う。学校暦は2月にはできるので飛び込みは難しい。11月

ぐらいに資料をもらっておくと学校の先生も来年度の計画がしやすい。(会長)

- ・教育委員会の事業計画の中に児童生徒の実態というのがあり、郷土を愛する人材の育成がある。課題として学校と地域との連携があげられる。校長も教員や保護者に美術館の活用について発信しないといけない。3年半後に碓井小学校中学校が一体型の校舎になる。教務主任、保護者、教育委員会が一緒になって現在話し合いをしているが、美術館もそこに入って今後の活動について連携できるよう参画してほしい。(藤井委員)
- ・碓井小学校と中学校が一体型の校舎となる時に、美術館がどう絡んでいくか。計画に乗り込んでいく必要がある。美術館がどんな役割が果たせるのか、利用する意味があるのか、美術館の価値を提示していく。この美術館には専門集団がいて、ボランティアがいて、文化協会がいる。いろんな人材を活用して、全国的なモデルが嘉麻市でできる可能性がある。このチャンスを逃さないようにしてほしい。
- ・国は美術館と医療福祉と学校と地域が連携するように言っている。そのモデルケースをここが先駆けとなって作っていけるとよい。(会長)

(4) 平成31年度事業計画(案)について

平成31年度の事業計画について、課題に基づいて、事業を計画し進めていくことを報告。

《主な質疑及び意見》

- ・家にスマートフォンがあるから、それで大体の時間がつぶせるため、今の子どもたちや保護者は美術館に足が向かないのではないかと思う。学校では美術の授業時間は2時間しかない。美術部も16時~18時が活動時間で2時間しかなく、絵の具を溶いて少ししたら終わってしまう。今はゆっくりみんなで絵を見たり、絵を描いたりする時間が全くない。だからこそ美術館を活用してほしいと思う。このままでは、だんだんと中学生、一般の人が美術館そのものに行く機会がなくなる。保護者の仕事の関係もあり、土曜日に行事やイベントを持ってくることがなかなかない。美術館に来る機会が作れるよう、意見交流ができればいい。(藤井委員)
- ・子どものうちから美術に触れ合う機会を持つことは大切だと思う。小さいうちに触れ合っていないと大人になって美術館に行く習慣ができない。そのためにも小学校でできることがあれば協力したい。とっかかりは何かといわれたら難しいが、ここで触れ合わないとい生触れ合わない人もいるし、これからそのような人が増えていくと思う。
(松岡委員)
- ・小さいうちに感動する、本物と出会うことは大切である。スマホの小さい画面ではなく、本物の絵から、筆使いやその後ろにいる一人の人間としての作家を感じてほしい。事業についての課題を軸に入れながら事業計画をしていかないといけない。点検評価でいただいた意見を反映させた計画をしてほしい。築20数年を経過し、施設改修費は当然出てくるわけで、維持費がかかるのであれば財政側は切りたくてしかたないだろう。中期、長期の計画をたてる上で、課題としていわれている郷土を愛する人材を育てるために学校と連携して美術館と学校、地域で子どもたちを育てていくという道筋を作り、そのために

美術館は必要であるということを提示していくと良い。(会長)

- ・ 体育館の緞帳が「讃歌」の絵だが、緞帳を下ろす機会がなく生徒の目に触れていない。うまく活用できないかと思うが、なかなかできない。(松岡委員)
- ・ 緞帳を活用して、美術館や、織田廣喜について知ってもらい、子どもたちに繋げてほしい。(会長)

3. その他

《主な質疑及び意見》

- ・ 議会で美術館はどう取り上げられたのか。(手島委員)
- ・ 美術館の維持管理費が高く、嘉麻市に美術館は必要なのかという発言があっている。また指定管理の話もでたが、碓井琴平文化館全体の方向性が決まってからということでは進んでいない。入館料の収入が少なすぎるので、PRが不足しているのではとの発言もある。入館料の収入で黒字にするのは難しいが、社会教育的な部分で、生涯学習の施設として子どもたち、市民への教育の部分にお金をかけるのは市として当然のことであり、職員も学校や地域の事業に出向き努力をしている。しかし、美術館側のPRが不十分なところもあり、その活動について知らない人もいて、美術館にかかる費用は無駄なお金として映っているようである。また、近くに広くて遊べる琴平公園があるのに知らない人も多い。費用がかかったとしても、より多くの人々に美術館について知ってもらうきっかけとなるために知名度がある人を呼んで企画展を開催する必要があるのではと考えている。美術館はやっぱり嘉麻市にあったほうが良いと市民に思ってもらえるように、きちんとした形でPRできるよう、内部で協議していく。(事務局)

閉会

この会議録は、緒方会長に確認していただきました。